

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
1	家庭における食育の推進				
	<p>・ 家族が、食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは、家庭における食の原点です。特に、朝食をしっかり食べることは一日の生活のリズムを整え、健全な食習慣を導きます。家庭における教育力や生活力の向上も見据えながら、基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上、望ましい食習慣を促進するため、家族ぐるみで、食に関する理解を深め、健全な食生活への意識の向上を図るなど、家庭における食育の実践につながる取り組みを推進します。</p>				
1	◇ 「早寝 早起き 朝ごはん」国民運動推進協議会の活動への協力等、規則正しい生活や朝食の欠食状況の改善を図ります。	「早寝早起き朝ごはん」国民運動推進協議会からの周知依頼、アンケート等を、各小・中・高等学校・特別支援学校に依頼し、回答をとりまとめている。	継続して実施していく。	概ね改善が図られている。	社会教育課
2	◇ 「家庭教育手帳」の活用の促進、幼児教育番組の放映及びビデオの貸し出し等により家庭における基本的なしつけ等、食育を含む子育て情報を提供します。	幼児教育放送「子育て日記」放映 7月～12月 毎週日曜 午前11:45～12:00 放送 全24回(再放送12回含む) テーマ「からだ」「こころ」「生活」「楽しく子育て支援の和」	幼児教育放送「子育て日記」放映 7月～12月 毎週日曜 午前11:45～12:00 放送 全24回(再放送12回含む) テーマ「こころ」「コミュニケーション」「教育」「生活」	概ね着実に推進が図られている。	社会教育課
3	◇ 食生活改善推進員による親と子を対象とした食育教室、男性を対象とした料理教室等の開催を通して、男性の食育への積極的な参加、家庭における食生活の改善、食を通じた心の健全育成を図ります。	おやこ料理教室 29回679名 男性料理教室 12回191名 生涯骨太クッキング 49回1,144名	おやこ料理教室 20回 男性料理教室 5回 生涯骨太クッキング 10回	概ね着実に推進が図られている。	健康増進課
4	◇ 親子や高校生などを対象とした体験学習を通して、食や農業に関する関心を高め理解を促進する機会を提供します。	高校生アグリ体験事業 H26.7.26 県立農業大学校 18名 H26.8.22 県立農業大学校 18名 栽培管理、収穫体験	高校生アグリ体験事業 H27.7.25 県立農業大学校 15名 H27.8.21 県立農業大学校 栽培管理、収穫体験	概ね着実に推進が図られている。	農業技術課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
5	◇ 学校等の内外で地域や家庭との連携を図りながら、地域全体で食育への理解を深めるため、シンポジウムや学習会等の開催、地場産物の生産体験活動等を通じた生産者との交流、子どもや保護者を対象とした食育啓発資料の作成など、様々な取り組みを進めます。※再掲				
6	◇ バランスのとれた食生活の実践を促進するため、栄養士会等を通じて、食生活指針、食事バランスガイド、食育ガイド（仮称）等の普及や、山梨版食事バランスガイド等の利用を推進します。※再掲				
7	◇ 食生活改善推進員等による、子どもから老人までを対象とした地域に根付いた食生活改善の取り組みを支援します。※再掲				
2 学校・保育所等における食育の推進					
<p>・ 学校・保育所等は、「給食」の時間をはじめとして、個々の授業や体験学習など教育活動全般を通して、子どもの成長・発達段階に応じた食育推進の場として重要な役割を担っています。このため、児童生徒の健全な食生活の実現と心身の成長を図り生涯を通じて健康で心豊かな食生活が営めるよう、地域や家庭とも連携しながら、食育指導の一層の充実に向けた取り組みを推進します。なお、高等学校や大学、専門学校等においても、健全な食生活の実践に向け、各教育段階や専門性に即した食育の取り組みを進めます。</p>					
8	◇ 朝食の摂取等、望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるため、「学校における食育推進のための指導手引き」に沿って、学校長のリーダーシップの下、栄養教諭・学校栄養職員が中心となり、各学校で、全職員が協力して、「食に関する指導全体計画及び年間指導計画」を作成し、学校・家庭・地域の連携による食育を推進します。	小・中・高・特別支援、全校で食に関する指導全体計画・年間指導計画の作成完了。	作成された計画に基づき、教育活動全体を通じた食育の実践。	平成21年度から取り組み、全体計画・年間計画ともに徐々に作成が行われ、平成26年度に全校において作成を完了した。	スポーツ健康課
9	◇ 栄養教諭の計画的な配置拡大を図るとともに、教職員の初任者研修、10年経験者研修等において、食育に関する講座を位置づけるなど、研修内容の充実や食育指導体制の充実を図ります。	平成26年度で県内全市町村に1名ずつ栄養教諭の配置を完了。教職員の初任者研修において全初任者を対象に学校における食育の推進についての研修を実施。	新たな5年間で25名の栄養教諭の配置拡大計画に基づき、5名の栄養教諭を採用。初任者研修での食育の研修は継続。	全市町村に1名ずつ栄養教諭を配置したことにより、食育の効果が上がっている。引き続き平成27年度から新たな栄養教諭配置の5カ年計画がスタートした。	スポーツ健康課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
10	◇ 学校等の内外で地域や家庭との連携を図りながら、地域全体で食育への理解を深めるため、シンポジウムや学習会等の開催、地場産物の生産体験活動等を通じた生産者との交流、子どもや保護者を対象とした食育啓発資料の作成など、様々な取り組みを進めます。	シンポジウムや学習会を開催しながら、家庭や地域と連携して食育の推進を図る学校が増えた。	栄養教諭の配置校を中心とした家庭・地域と連携した食育活動の推進。	国や県の指定事業を中心とした学校・家庭・地域が連携した食育活動が推進されてきている。	スポーツ健康課
11	◇ 栄養教諭・学校栄養職員と養護教諭を中心に、保護者と学校が連携を図りながら児童生徒の実態に応じた指導プログラムを作成し、食物アレルギーや肥満等についての個別指導や集団指導を行うことにより、健康的な生活習慣の定着を図ります。	食物アレルギー対応の研修会を複数回開催することによって、保護者と連携をとりながら食物アレルギーの対応を行う学校が増えた。	個別指導の事例発表を行う研修会を開催し、より具体的な対応について学習を深める。	県のアレルギー対応マニュアルを参照に市町村ごとの対応マニュアルが作成されたり、学校での対応がなされた。	スポーツ健康課
12	◇ 地域の農業生産者等と協力体制を築き、学校給食に地域の食材を利用した献立、郷土食、行事食、米飯給食等を積極的に取り入れていきます。	食育月間や学校給食週間を中心として地場産物を活用した給食が県下全域で実施された。	地域産物活用のための実務講習会や山梨県の郷土食、食文化についての研修会の実施。	学校給食における地場産物の活用率30%を目標に徐々に推進されてきた。	スポーツ健康課
13	◇ 学校給食等での県産農産物の利用拡大を促進するため、生産者及び農業団体、流通関係者、栄養士等による情報交換を進めます。 ※再掲				
14	◇ 県内の小中学校等における学校給食への県産牛乳の安定的な供給を推進します。 ※再掲				
15	◇ 給食献立表や給食だより等の配布、親子料理教室や学校給食試食会等の取り組みにより、食育の普及を図ります。	給食献立表や給食だより等の配布、親子料理教室や試食会等の実施が学校と家庭で行う食育の手立てとして効果を上げている。	継続して実施していく。	平成23年度から行われており、学校と家庭で行う食育の手立てとして効果を上げている。	スポーツ健康課
16	◇ 栄養教諭・学校栄養職員や学級担任等の指導により、児童生徒の地域の食文化に対する関心を高め、理解させるとともに、食に対して感謝する心を育てます。	年間指導計画に位置づけた食文化や感謝して食べることについての食育指導が計画的に進められている。	給食と関連させながら、より計画的に実践を進める。	教科や特別活動などの授業や給食の献立や給食時の指導において食文化や感謝につながる食育指導を実施してきた。	スポーツ健康課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
17	◇ 学校給食において、地元や全国の郷土料理、姉妹都市の料理等を取り入れることにより、食文化の継承と豊かな味覚を育みます。※再掲				
18	◇ 賢い消費者としての視点から食を主体的に選択する力（食の自己管理能力）を育む等、教育活動全体で発達段階や実態に応じた食に関する指導をさらに充実させます。	食に関する指導の全体計画・年間指導計画の作成が進んだため多くの学校で実践されている。	すべての学校で計画にそった指導が行われる。	食の自己管理能力を育成するための指導が全体計画や年間計画に位置づけられ、教科や特別活動、給食時間の中で、関連付けながら実践されてきた。	スポーツ健康課
19	◇ 農林水産業者等と連携し多様な体験活動の実施を推進するためのネットワークの構築に努めます。	積極的に推進する地域においては、地教委を中心として効果的な情報のやり取りが行われた。	積極的な取り組みの行われている地域の情報を研修会等で共有しあう。	各地域において、学校の活動を推進するための組織づくりを検討してきた。	スポーツ健康課
20	◇ 保育所（園）長や調理担当職員等への研修等を通して、乳幼児期にふさわしい給食の実践を推進するとともに、給食の役割や食育の重要性等についての理解を促進します。	山梨県保育所（園）等関係職員研修（給食担当者研修会） H26.8.6 ぴゅあ総合126名 ・保育所におけるアレルギー対応について ・家庭での地産地消の推進の呼びかけ	山梨県保育所（園）等関係職員研修（給食担当者研修会） H27.7.25 山梨学院大学195名定員 ・給食に役立つ調理科学と安全衛生（食物アレルギーを含む）及び危機管理	保育所（園）等の給食担当者を対象とした研修会は毎年開催している。研修の実施により、職務に必要な専門的な知識及び技術の習得に役立っている。	子育て支援課
21	◇ 県と大学との連携による食育推進の取り組みとして、食に関する講義への県職員の出講、附属幼稚園・保育園における学生による食育ボランティア活動に係る研修の実施、県産食材を活用した創作郷土料理や旅館向けヘルシーメニューの開発、県産林産物を活用した新たな料理レシピの開発などを進めます。	食育推進ボランティア養成研修 H26.5.14 山梨学院短期大学2年生300名 H26.5.26 山梨学院大学1年生45名	食育推進ボランティア養成研修 H27.6.11 山梨学院短期大学2年生300名 H27.6.22 山梨学院大学1年生50名	例年、山梨学院大学と山梨学院短期大学へ出向き食育推進ボランティア養成研修を実施している。食育推進ボランティアの資質向上が図られている。作成した料理レシピについては、県および大学のHPへ掲載し周知されている。	消費生活安全課 健康増進課
3 地域における食育の推進					

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
	<p>・ 食は日常生活そのものであり、家庭や学校以外でも、地域における生活のあらゆる場面で食育推進の大切な場となることから、食育についての様々な関係者が様々な機会をとらえて、県民一人ひとりの健全な食生活の実践に向けて取り組みを進めます。また、体験型ツーリズムに対するニーズの高まりなどを背景として、食を支える本県の農業・農村資源は貴重な観光資源でもあることから、地域を活性化するための新たなインフラストラクチャとしての食育を進めます。</p>				
22	◇ バランスのとれた食生活の実践を促進するため、栄養士会等を通じて、食生活指針、食事バランスガイド、食育ガイド（仮称）等の普及や、山梨版食事バランスガイド等の利用を推進します。	保健所職員による事業所等への出前講座や食生活改善推進員の養成講座などで、周知を図った。	同様に継続実施	概ね着実に周知が図られている。	健康増進課
23	◇ 食生活改善推進員等による、子どもから老人高齢者までを対象とした地域に根付いた食生活改善の取り組みを支援します。	県内市町村において、料理教室の他、健診時の間食提供や防災訓練時の健康的な非常食提供などを行った。また、家庭訪問によるみそ汁塩分濃度測定を5,628戸実施。	健診時の間食提供や防災訓練時の健康的な非常食提供については、継続。みそ汁塩分濃度測定結果を県マップ等にまとめ、啓発普及を行う。	概ね着実な推進が図られている。	健康増進課
24	◇ 栄養士・調理師・食生活改善推進員等への研修会等を開催し、地域における栄養相談や食生活改善の取り組みの充実を図るとともに、特定給食施設等への監視・指導・助言を通じて、食育の推進を図ります。	栄養士 36回914人 調理師 14回241人 食生活改善推進員 18回1,324人 給食施設 巡回218施設 研修会5回559人	同様に継続実施	概ね着実な推進が図られている。	健康増進課
25	◇ 健康相談等による妊産婦や乳幼児に関する栄養指導、離乳食・アレルギー・味覚等に関する情報の提供、愛育会が行う声かけ運動により幼児期における食の知識の普及を図ります。※再掲				
26	◇ 市町村による健康づくりのためのモデル的な取り組み等、地域における栄養・食生活の改善等を通してメタボリックシンドローム予防のための取り組みを推進します。 ※再掲				
27	◇ 食品関連事業者やNPO法人等の食育活動を促進するため、「やまなし食育推進応援団」として登録し、県ホームページ等で食育に関する活動の内容、事業所等の紹介など情報を提供します。	新規登録：H26.6.18生活協同組合パルシステム山梨	新規登録：H27.5.18イオン甲府昭和店 この他、新規登録を推進する。	登録事業所が年々増加し、現在250事業所が登録され活動している。	消費生活安全課
28	◇ 学校等の内外で地域や家庭との連携を図りながら、地域全体で食育への理解を深めるため、シンポジウムや学習会等の開催、地場産物の生産体験活動等を通じた生産者との交流、子どもや保護者を対象とした食育啓発資料の作成など、様々な取り組みを進めます。 ※再掲				

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
29	◇ 農産物等の直売や加工体験、地域情報等を提供する施設、市民農園、体験農園の整備を促進し、生産者と消費者の交流の場を提供します。	実績なし。	引き続き推進していく。	H25JAフルーツ山梨にて直売所の建替え整備。	農政部
30	◇ 山梨の特性を活かしたグリーンツーリズムを創出するため、交流体験ツアーのプログラムづくりや旅行代理店等への販売促進活動を支援します。	ツアー造成促進事業 やまなし観光推進機構事業	ツアー造成促進事業 やまなし観光推進機構事業	本事業による観光説明会・商談会へグリーンツーリズムに関わる県内事業者が参加。	観光振興課
31	◇ 小中学校等が実施する農業体験等を組み込んだ多様な体験型教育旅行に対応するため、農村体験メニューづくりや農家体験民宿の開業を支援します。	教科等の指導内容にそった農業体験指導が学校ごとに計画され実施されてきた。	教科等の指導内容にそった農業体験指導が学校ごとに計画され実施される。	教科等の指導内容にそった農業体験指導が学校ごとに計画され実施されてきた。	スポーツ健康課
32	◇ 県観光パンフレットやホームページをはじめ、交流体験ツアー、PR活動等を通じて、地域食材を生かした料理等の情報やグリーンツーリズムでの農業体験、イベント等の情報を発信します。	富士の国やまなしまなびツーリズム推進事業	・富士の国やまなしまなびツーリズム推進事業 ・市民農園の開設等に関するアンケート調査の実施 ・農家民宿の開業希望者に対し、関係課室と連携して適切な指導を行う。	H26年度新規事業により構築した教育旅行サイト内に県内食育体験プログラムのデータを利用。	観光振興課 農村振興課
33	◇ 食品の取り扱いや食中毒防止のための講習会、きのこ鑑定会、県政出張講座等を通じて、食品の安全性や食品衛生の知識の普及を図ります。※再掲				

4 ライフステージに対応した食育の推進

	<ul style="list-style-type: none"> 県民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、子どもから成人、高齢者に至るまで、生活習慣病の予防等に向けた食生活の改善など、ライフステージに応じた食育を推進し、生涯食育社会の構築に向けて取り組みを進めます。 				
34	◇ 健康相談等による妊産婦や乳幼児に関する栄養指導、離乳食・アレルギー・味覚等に関する情報の提供、愛育会が行う声かけ運動により幼児期における食の知識の普及を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦や乳幼児に関する栄養指導や情報提供は主に市町村母子保健事業の中で推進されている。また、保健所においては小児慢性特定疾病児童等への面接・訪問等を通じて、栄養指導や情報提供を行った。 愛育班員が各地域で声かけをとおして食生活の知識・情報の提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村が行う妊産婦や乳幼児に関する栄養指導や情報提供の推進を図る。 H27乳幼児栄養調査(国からの委託事業)の実施。 愛育会の声かけ運動等による普及活動を継続して行う。 	概ね着実に推進が図られている。	健康増進課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
35	◇ 各事業所への出前健康講座や衛生管理者への生活習慣病予防講習会等による情報の提供や生涯を通じた保健サービス提供体制の整備を図ります。	各保健所において小規模事業所を対象とした生活習慣病予防講座や事業所への出前講座を実施。 ・生活習慣病予防講座:5保健所 10回 ・出前講座(栄養・食生活):2保健所 4回	引き続き各保健所において同様に実施	概ね着実に推進が図られている。	健康増進課
36	◇ 市町村による健康づくりのためのモデル的な取り組み等、地域における栄養・食生活の改善等を通してメタボリックシンドローム予防のための取り組みを推進します。	年間を通じて取り組みは行っているが、9月の健康増進普及月間及び食生活改善普及運動の期間にあわせ、県内市町村で各種教室等を開催。内容は、健康・栄養相談、運動(ウォーキング)教室、禁煙教室、料理教室など。	同様に継続実施	各市町村で特色ある取り組みが行われており、着実な推進が図られている。	健康増進課
37	◇ 「歯の衛生週間」「歯と口の健康週間」、県民歯科保健大会の開催「山梨県民歯科保健のつどい」等、生涯を通じた歯の健康づくり(8020運動)により、食生活を支える口腔機能維持・向上の推進を図ります。	○「歯と口の健康週間」に県内各地で開催された関連イベントにおいて食育・栄養関連コーナーを設け、啓発活動を実施 ○「山梨県民歯科保健のつどい」において食育に関する講演を実施する他、食育関連のブースを設置して啓発活動を実施 参加者数:2,000人超 ○「食育」をテーマに養護教諭、保育士等、乳幼児・学童期における歯科保健に関する指導者を対象とする研修会を開催 参加者数:202名	○「歯と口の健康週間」に県内各地で開催された関連イベントにおいて食育・栄養関連コーナーを設け、啓発活動を実施 ○「全国歯科保健大会」開催の影響により、「山梨県民歯科保健のつどい」は知事表彰等に限る縮小開催の予定。H28年度より、再会予定。 ○要介護高齢者・障害(児)者の摂食嚥下機能に係る研修会を開催。	○食べることに直結する歯・口の健康づくりに関する啓発活動を始め、8020運動の推進をとおして、また、高齢社会における口腔の機能の維持・向上を目的とする事業を展開するなど、食育推進に貢献している。	健康増進課
38	◇ 食生活改善推進員等による、子どもから老人までを対象とした地域に根付いた食生活改善の取り組みを支援します。※再掲				

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
39	◇ バランスのとれた食生活の実践を促進するため、栄養士会等を通じて、食生活指針、食事バランスガイド、食育ガイド（仮称）等の普及や、山梨版食事バランスガイド等の利用を推進します。 ※再掲				
5 地産地消の推進と食文化の継承					
	・ 本県は様々な特色ある食物を生産しています。また、大都市に隣接しながら恵まれた自然の中で、特色ある食文化を発展させてきました。地元で生産された新鮮で安全な県産食材を地元で消費することにより、食に関する県民の理解と関心を高めるとともに、特色ある食文化を継承しながら、これまで積み重ねた食に関する経験を学び、一層豊かな食文化を醸成していきます。				
40	◇ 地元農畜水産物やきのこ、山菜等の特用林産物の地産地消に取り組むとともに、市町村の地産地消の推進を支援し、地域への県産食材の供給体制を整備します。	ふるさと特産品フェア(農業まつり) H26.10.19～20 小瀬スポーツ公園 4.5万人 各種団体が農業のPRや啓発、特産物の販売を実施	ふるさと特産品フェア(農業まつり) H27.10.17～18 小瀬スポーツ公園 各種団体が農業のPRや啓発、特産物の販売を実施	農業・農村の重要性や県産農畜産物の消費拡大等への県民の理解が深まっている。	農政総務課
		○特用林産フェアの開催(3回) ・H26.10.5 富士河口湖町「グリーンエイト」 H26.10.25 北杜市「道の駅南きよさと」 H26.11.28 甲府市「県民ひろば」 ・県産特用林産物の販売、PRを行った。 ○「ふるさと特産品フェア」 ・H26.10月18日～19日 ・県産特用林産物の販売、PRを行った。	○特用林産フェアの開催(3回) ・H27.10月～11月(予定) ・県産特用林産物の直売、PRを行う。 ○「ふるさと特産品フェア」における県産特用林産物の販売、PR ・H27.10月17日～18日(予定) ・県産特用林産物の直売、PRを行う。	特用林産フェアは、年2～3回、道の駅等の地域の交流拠点を会場に開催している。また、毎年度、「ふるさと特産品フェア」において、県産特用林産物の販売、PRを行っている。いずれも県産品の良さ、地産地消の取り組みについて広く県民に知ってもらおう機会となっている。	林業振興課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
41	◇ 地産地消を県民運動として定着させていくため、地産地消推進大会を開催するとともに、消費者、生産者、流通・販売事業者から募集した地産地消サポーターの拡大を一層推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・食のやまなし地産地消推進大会 H27.1.27 自治会館 地産地消優良事例表彰、講演会、パネルディスカッション ・地産地消サポーター登録者数 地産地消サポーター数1,526名 (内訳:生産者570名、消費者669名、流通関係者287名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・食のやまなし地産地消推進大会 H28.1月～2月を予定 自治会館 地産地消優良事例表彰、講演会、パネルディスカッション ・地産地消サポーター登録者の増加に向けて、引き続き取り組んでいく。 	食のやまなし地産地消推進大会については毎年開催している。	果樹食品流通課
42	◇ 「県産食材の日」や「ふるさと特産品フェア」、「特用林産フェア」、「県産品愛用キャンペーン」等の様々なイベントやテレビ、ビデオ、新聞、県政出張講座等の様々な媒体を通じて、地産地消のPR活動を展開します。	・「県産食材の日」については、ラジオ等でPRを行った。	・「県産食材の日」については、ラジオ等でPRを行う予定。	「県産食材の日」については、ラジオ等でPRを行っている。	果樹食品流通課
		<ul style="list-style-type: none"> ○特用林産フェアの開催(3回) ・H26.10.5 富士河口湖町「グリーンエイト」 H26.10.25 北杜市「道の駅南きよさと」 H26.11.28 甲府市「県民ひろば」 ・県産特用林産物の販売、PRを行った。 ○「ふるさと特産品フェア」 ・H26.10月18日～19日 ・県産特用林産物の販売、PRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特用林産フェアの開催(3回) ・H27.10月～11月(予定) ・県産特用林産物の直売、PRを行う。 ○「ふるさと特産品フェア」における県産特用林産物の販売、PR ・H27.10月17日～18日(予定) ・県産特用林産物の直売、PRを行う。 	特用林産フェアは、年2～3回、道の駅等の地域の交流拠点を会場に開催している。また、毎年度、「ふるさと特産品フェア」において、県産特用林産物の販売、PRを行っている。いずれも県産品の良さ、地産地消の取り組みについて広く県民に知ってもらう機会となっている。	林業振興課
43	◇ 農産物直売所の経営安定を図るため、専門家による経営管理や商品管理のセミナーを開催するとともに、県内の直売所を紹介するホームページの充実等により、直売所の利用促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物直売所「魅力アップ支援講座」 H26.11.13 茨城県内直売所を視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物直売所「魅力アップ支援講座」 H27.11月 県外直売所を視察予定 	平成23年度～平成24年度は、農産物直売所「魅力創造講座」(座学講座)を開催した。平成25年度は、農産物直売所「魅力アップ支援講座」を開催し、東京都内直売所を視察し魅力アップに繋がった。	果樹食品流通課
44	◇ 農産物直売所の利用者が求める地元農産物を安定して供給できるよう、生産品目の増加や周年生産、さらには直売所間の相互連携を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の特定の直売所を対象に、基礎栽培講習会を開催した。 ・JAにおいて、セミナーを開催した(土曜開催)。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の特定の直売所を対象に、基礎栽培講習会を開催。 ・JAを拠点とした基礎栽培技術指導。 <p>など</p>	直売所出荷者の栽培技術の向上。兼業農家等の基礎技術の向上。地域農業生産の底上げ。	農務事務所

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
45	◇ 県独自の認証基準を満たした品質等が特に優れた県産農産物を「特選農産物」として認証し、県産農産物全体のレベルアップとイメージアップを図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催(6月、3月) ・認証農産物の出荷状況の確認 ・出荷実績調査 ・認証農産物のPR (産地研修会の開催、PR冊子・ピンバッチの作成、フルーツセミナーの開催など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会の開催 ・認証農産物の出荷状況の確認 ・出荷実績調査 ・認証農産物のPR、普及 	年々、認証農産物の出荷量は増加しており、生産者の意欲の向上と消費者への知名度も向上しつつある。	果樹食品流通課
46	◇ 「甲斐のこだわり環境農産物」の認証やPR等を行い、環境にやさしい農業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・認証、出荷状況の確認 認証及び出荷実績の報告、検査(年1回) ・認証制度のPR活動の推進 H26.11.18～19 農業まつり(小瀬スポーツ公園)でのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・認証委員会の開催 ・認証、出荷状況の確認 ・認証制度のPR活動の推進 	認証及び出荷実績の報告、検査を毎年行っている。農業まつりにおいて毎年PRを行い、制度の周知を図っている。	果樹食品流通課
47	◇ 消費者の食の安全・安心に対する関心が一段と高まる中で、消費者から信頼される農産物の生産を行うため、有機農業や化学肥料、化学合成農薬の低減等をはじめとする環境保全型の農業生産方式の導入を推進します。	環境保全型農業推進協議会 1回開催 エコ実証ほの設置 4ヶ所 エコファーマーの認定 7,690名 環境保全型農業直接支払補助金の推進 取組面積 131.1ha	継続	環境保全型農業の技術実証を進め、積極的な取り組みの推進を図っており、エコファーマーの販売農家に対する認定割合は全国3位であり、依然として環境に優しい農業に対する意識が高まっている。	農業技術課
48	◇ 商工会によるむらおこしや中小企業によるやまなしブランド形成の取り組みを助成し、特産品の開発や販路拡大、 情報発信 を支援します。	富士の国やまなし観光ネット情報発信事業	富士の国やまなし観光ネット情報発信事業	サイト内に関連情報を掲載し、広く情報を発信している。	観光部
49	◇ 学校給食等での県産農産物の利用拡大を促進するため、生産者及び農業団体、流通関係者、栄養士等による情報交換を進めます。	食育月間や学校給食週間を中心として地場産物を活用した給食が県下全域で実施され、情報交換された。	県内農産物活用のための実務講習会の実施。	学校給食における地場産物の活用率30%の目標に向かって、各地域において、県産農産物の活用を推進するための組織化を検討してきた。	スポーツ健康課
50	◇ 県内の小中学校等における学校給食への県産牛乳の安定的な供給を推進します。	学校給食用牛乳供給事業の実施にあたり、平成27年度の供給業者及び供給価格を決定した。	学校給食用牛乳供給事業の実施にあたり、平成28年度の供給業者及び供給価格を決定する。	生産者・供給者・教育機関等の関係者と連携し、適正な業者の選定及び価格の決定を行っており、学校給食用牛乳の安定供給に貢献している。	畜産課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
51	◇ 地域の農業生産者等と協力体制を築き、学校給食に地域の食材を利用した献立、郷土食、行事食、米飯給食等を積極的に取り入れていきます。※再掲				
52	◇ 調理師や栄養士、食生活改善推進員等による食の祭典等のイベントや親子料理教室等の各種機会を通じて、郷土料理を活用し、食文化の継承を推進します。	料理教室では地産地消献立とし、地元 の食材の伝達などを行った。 郷土料理取り組みの一部(食改推) 富士吉田市:若い世代親子対象昔ながら のおやつ作り教室、忍野村:小学生 対象ほうとう作り、昭和町:柏餅作り教 室	調理師会では、5月に食の祭典やまな しを開催し、郷土料理作品コーナーを 設置。食生活改善推進員においては、 各管内ごとの郷土食の展示し、試食 コーナーを設置。 各市町村において、取り組みを継続実 施。	概ね着実に推進が図られている。 平成24年～25年開催の富士の 国やまなし国民文化祭の協力 事業として、やまなし伝承料理 教室を各地で開催し、県民意 識の醸成に貢献している。	健康増 進課
53	◇ 「いきいき山梨ねりんピック」などの各種イベントにおいて、郷土料理の紹介を行い、食文化の継承を図ります。	ねりんピック、県民の日イベントでは 郷土料理の紹介は実施なし。バランス の取れた食生活を送るための啓発パネ ル等を展示。	静岡県主催「ふじのくに健康長寿サミ ット」、「いきいきねりんピック」におい て、平成26年度に収集した地産地消の 減塩レシピ、食の祭典やまなして食改 推が展示した郷土食レシピを紹介す る。	ねりんピック、県民の日など のイベントでは県の健康課題 の一つである日常生活の歩数 の増加を目指し、健康ウォーキ ング教室を開催。郷土料理の 展示は実施しなかった。平成24 年～25年の国民文化祭におい て、食生活改善推進員が伝承 料理教室を行い、食育活動に 貢献している。	健康増 進課
54	◇ 食生活改善推進員や農村女性グループ等が作成した郷土料理集等を収集し、県の食育ホームページでの発信を通じて、郷土料理や特産品を活用した新たな料理の普及を図り、豊かな食文化を継承します。	山梨学院大学および山梨学院短期大 学で作成したレシピ集を県のホーム ページに掲載した。	継続していく。	随時、情報収集しホームペー ジ等を通じた情報提供に努めて いる。	消費生 活安全 課
55	◇ ワイン酒造組合、ぶどう生産農家、行政等で構成する「ワイン産地確立推進検討会」の取り組みや国産ワインコンクール、ワインまつり、ワインキャンペーン等の様々なイベントを通じて、山梨県産ワインの高品質化やブランド化、消費拡大に取り組むとともに、ワインを本県の風土が育んだ食文化として発信します。	山梨ヌーボーまつり、山梨ワインフェス タ等を実施。	継続して実施する。	各種イベントを実施するなか で、県産ワインの高品質化やブ ランド化、消費拡大に取り組ん できた。	産業労 働部

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
56	◇ 学校給食において、地元や全国の郷土料理、姉妹都市の料理等を取り入れることにより、食文化の継承と豊かな味覚を育みます。	食育月間や学校給食週間を中心として郷土料理や姉妹都市等の料理を取り入れた給食が県下全域で実施された。	山梨県の郷土食、食文化についての研修会の実施。	給食の献立に郷土料理や姉妹都市の料理を取り入れることで、食文化の伝承や児童生徒の食経験が豊かなものとなり、味覚の形成につながるよう取り組んできた。	スポーツ健康課
57	◇ 栄養教諭・学校栄養職員や学級担任等の指導により、児童生徒の地域の食文化に対する関心を高め、理解させるとともに、食に対して感謝する心を育てます。 ※再掲				
6 食育県民運動の展開と推進体制の充実					
<p>・ 食育の取り組みは、県民一人ひとりが生涯にわたってねばり強く継続していくことが重要ですが、一方で、行政、関係者・関係団体が、それぞれ推進に向けた体制を整え、相互に連携・協力しながら力を合わせて展開していくべき県民運動でもあります。そのためには、関係者が、日常的に食に関する知識の習得や情報提供を受けるとともに、活発な意見交換が行われるような機会と場の提供について充実を図ります。</p>					
58	◇ 知事を本部長とする「山梨県食の安全・食育推進本部」において、食育に係る施策を総合的・計画的に推進します。	実績なし。	第3次やまなし食育推進計画の策定について、協議する。	第2次やまなし食育推進計画の策定(H23.8)について協議した。	消費生活安全課
59	◇ 市町村への巡回訪問等を通じて、市町村食育推進計画の策定を促進します。	計画未策定の3市に巡回指導を行った。そのうち2市について、年度内に市食育推進計画が策定された。	計画未策定の1市に巡回指導を行う。年度内の市食育推進計画の策定を支援する。	H22年度末は、策定率44.4%に留まっていたが、繰り返しの巡回指導によりH26年度末には、策定率96.3%まで向上した。	消費生活安全課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
60	◇ 全国の都道府県で構成する「全国食品安全自治ネットワーク」において、食を巡る現状や課題等についての情報交換や意見交換を行い、効果的な食育運動の展開に取り組みます。	H26.10.28 都道府県会館 食品表示法、HACCPについて	H27.9 都道府県会館 食品表示法施行後の各自治体の対応	毎年、1回開催されているが、食の安全・安心に関することがテーマとなってきた。	消費生活安全課
61	◇ 県民運動として食育を盛り上げるため、食育関係団体等で構成する「山梨県食育推進協議会」を通じて、県民の自発的な食育実践活動を促進します。	食育推進協議会総会 H27.1.30 実績・計画の報告、基調講演 食育推進協議会幹事会 H26.11.27総会の運営、H27食育推進シンポジウムについて	食育推進協議会総会 H28.1実績・計画の報告、基調講演 食育推進協議会幹事会 H27.5.11 H27食育フェスタ、H27食育推進シンポジウムについて H27.11総会の運営、H28食育推進シンポジウムについて	例年、総会と幹事会(2回)開催している。各関係機関が連携を図ることで、県民運動として食育を推進する上で大きく貢献している。	消費生活安全課
62	◇ 「食育月間」に合わせた啓発や食育情報の提供、「食育推進シンポジウム」の開催等を通じて、食育についての県民意識の醸成を図るとともに、家庭、学校、保育所、地域等と連携した取り組みを促進します。	食育推進シンポジウム H26.6.25 県立文学館350名 基調講演、事例発表3団体 やまなし食育フェスタ H26.7.6 イオンモール甲府昭和 食育推進ボランティアによる上演	食育推進シンポジウム H27.6.16 県立文学館350名 基調講演、事例発表3団体 やまなし食育フェスタ H27.6.6 イオンモール甲府昭和 食育推進ボランティアによる上演	食育推進シンポジウムについては毎年開催している。やまなし食育フェスタについては、H26から実施した。食育についての県民意識の醸成に貢献している。	消費生活安全課
63	◇ 「食育月間」、「食育の日」などにあわせて各種広報媒体を活用して食育情報の提供を行うとともに、「県民の日」や「健やか山梨21推進大会」、「愛育大会」、「県民歯科保健大会(歯科保健のつどい)」、「青少年健全育成推進大会」等のイベントでの啓発を通じて、食育についての県民意識の高揚を図ります。	食育月間 県広報誌ふれあい、TV・ラジオによる 情報提供、情報誌かいじ号、県ホームページへ掲載 食育の日 TVによる情報提供、県ホームページへ掲載	食育月間 県広報誌ふれあい、TV・ラジオによる 情報提供、情報誌かいじ号、県ホームページへ掲載 食育の日 TVによる情報提供、県ホームページへ掲載	各種媒体を活用し情報提供に努めてきた。	消費生活安全課
64	◇ 「食の安全・食育推進大会」や「食のやまなし地産地消推進大会」等において、食育の推進や地産地消に取り組む団体を表彰し、食育や地産地消についての県民意識の高揚を図ります。	食の安全・食育推進大会 H26.9.10 かいてらす200名 優良活動表彰2団体、基調講演	食の安全・食育推進大会 H27.9. かいてらす200名 優良活動表彰〇団体、基調講演	毎年開催し、食育の推進、関係団体の気運醸成に貢献している。	消費生活安全課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
		<p>・食のやまなし地産地消推進大会 H27.1.27 自治会館 地産地消優良事例表彰、講演会、パネルディスカッション</p> <p>・地産地消サポーター登録者数 地産地消サポーター数1,526名 (内訳:生産者570名、消費者669名、流通関係者287名)</p>	<p>・食のやまなし地産地消推進大会 H28.1月～2月を予定 自治会館 地産地消優良事例表彰、講演会、パネルディスカッション</p> <p>・地産地消サポーター登録者の増加に向けて、引き続き取り組んでいく。</p>	食のやまなし地産地消推進大会については毎年開催している。	果樹食品流通課
65	◇ 「食育推進ボランティア」を対象とした研修会等を開催し、その専門性を活かした食育活動の充実を図ります。	<p>食育推進ボランティア養成研修 H26.5.14 山梨学院短期大学2年生300名 H26.5.26 山梨学院大学1年生45名</p>	<p>食育推進ボランティア養成研修 H27.6.11 山梨学院短期大学2年生300名 H27.6.22 山梨学院大学1年生50名</p>	例年、山梨学院大学と山梨学院短期大学へ出向き食育推進ボランティア養成研修を実施している。食育推進ボランティアの資質向上が図られている。	消費生活安全課
66	◇ NPO法人等による先進性や持続性、事業効果のある食育活動、民間団体によるボランティア活動を支援します。	県食育推進協議会の後援名義による支援や食の安全・食育推進大会における優良活動表彰により支援	継続	県食育推進協議会の後援名義による支援や食の安全・食育推進大会における優良活動表彰により支援を実施し、法人等の意識啓発に貢献してきた。	消費生活安全課
67	◇ 食品関連事業者やNPO法人等の食育活動を促進するため、「やまなし食育推進応援団」として登録し、県ホームページ等で食育に関する活動の内容、事業所等の紹介など情報を提供します。※再掲				
68	◇ 栄養士会による電話相談や児童館・事業所等での栄養相談、市町村広報誌への情報提供等の取り組み、調理師会や食生活改善推進委員会等の活動による食育に関する情報提供等の取り組みを促進します。	<p>栄養士会委託事業「なんでも栄養相談事業」実績 出前栄養相談(小規模事業所)10回、126名(児童館)21回、793名 電話相談 187件 栄養・食生活情報32編をホームページに公開、市町村等へ情報提供</p>	栄養なんでも相談事業、同規模で継続実施	小規模事業所の従業員や児童館に来所する子どもとその保護者に重点を置き活動をしている。生活習慣病予防や望ましい食生活の普及、実践へのアドバイスにより、広く県民意識の醸成の推進が図られた。	健康増進課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
69	◇ 食育や食の安全・安心等についての意見交換会や情報提供等を通じて、県民の意見聴取や関係団体の取り組みを促進します。	食の安全・安心を語る会 H26.7.23かいてらす114名 H26.11.19小瀬武道館53名 H27.3.20ぴゅあ総合150名 情報誌かいじ号 4回発行 食の安全・安心推進月間関連イベント H26.9.11～19防災新館 パネル展示等	食の安全・安心を語る会 3回実施予定 情報誌かいじ号 4回発行 食の安全・安心推進月間関連イベント H27.9 防災新館 パネル展示等 食品表示法説明会 H27.7.7県立文学館250名 食品表示法パンフレットの作成	例年、食の安全・安心を語る会を3回実施、また、情報誌かいじ号を4回発行し、リスクコミュニケーションの充実に努めている。H26年度より防災新館での食の安全・安心推進月間関連イベントを実施。H27年度については、食品表示法説明会やパンフレットの作成を実施し、情報提供に努めている。	消費生活安全課
70	◇ 食品の取り扱いや食中毒防止のための講習会、きのこ鑑定会、県政出張講座等を通じて、食品の安全性や食品衛生の知識の普及を図ります。	(計)154回 8,911人 148回8,676人 + 6回 235人(H26年度高校総体)	150回 9000人	食品衛生責任者講習会、食肉衛生月間における研修会、要望に応じて出張講座等を実施。また、昨年は高校総体に向けての衛生対策やノロウイルス対策として臨時に講習会を開催した。実演を伴う研修では少人数を対象に実施し、知識の普及が図られた。 H24 10,728人、H25 8,816人、H26 8,911人	衛生業務課
71	◇ 県民から募集した「食品表示ウォッチャー」の活動や食品表示合同調査、食品表示実態調査を通じて、県民と食品関連事業者への食品情報に関する制度の普及を図ります。	食品表示ウォッチャー116名を委嘱 食品表示合同調査91店舗実施 食品適正表示実施施設率98.9%	食品表示ウォッチャー116名を委嘱 食品表示合同調査実施中	継続した食品表示ウォッチャーの活動や食品表示合同調査の実施により、年々、食品適正表示実施施設率は向上している。	消費生活安全課
72	◇ 県産牛肉情報掲載ホームページ等による「牛肉トレーサビリティ」制度の適切な運用や、農家等への農薬・肥料等の使用履歴記帳を促進します。	「県産牛肉情報掲載ホームページ」アクセス数 42,000件	「県産牛肉情報掲載ホームページ」アクセス数 42,000件	牛肉の安全性に対する牛海綿状脳症(BSE)のまん延防止措置の的確な実施を目的に、牛を個体識別番号で一元管理し、消費者に正しい情報を積極的に提供してきた。その結果、平成23年度アクセス数5,000件に対し、26年度は8倍以上に増加し、消費者の牛肉に対する安全性の認識が深められている。	畜産課

番号	事業内容	事業の実施状況		計画における事業評価	担当課室
		H26実績	H27予定		
		生産者自らが農業生産工程全体を見直し、食品の安全や環境保全のための農作業改善に向けたGAPの取組を推進。 推進会議の開催 2回 産地リーダー育成研修会の開催 2回 GAP手法導入産地の育成 6産地	継続	毎年、GAP手法を導入する産地が増加しており、着実に産地、農家のGAPに対する意識が高まっている。	農業技術課
73	◇ 「山梨版食事バランスガイド」等や食品の安全性や栄養等、様々な内容を盛り込んだ県の食育ホームページ等を通じて、県民が必要とする情報を提供するとともに、食育への取り組みを促します。	本県や国での取組状況について、随時、ホームページや情報誌かいじ号等を通じた情報提供に努めている。	継続	本県や国での取組状況について、随時、ホームページや情報誌かいじ号等を通じた情報提供に努めている。	消費生活安全課
74	◇ 県ホームページや生活情報誌「かいじ号」、各種パンフレット等により、食育活動事例や食品の安全性、栄養・食生活の改善について情報を提供するとともに、食についての総合窓口「食品安全110番」を通じて、県民からの食の安全・安心全般の相談や苦情、情報提供等を受け付けます。	情報誌かいじ号4回発行 食品安全110番 84件	情報誌かいじ号4回発行 食品安全110番 食品表示法パンフレットの作成	食品安全110番を通じた相談・苦情の受付や情報誌、各種パンフレットでの情報提供に努めてきた。	消費生活安全課
75	◇ 県政モニターや各イベントでの食育アンケート、県民の栄養摂取状況や健康状態、生活習慣病等についての「県民栄養調査」、公立学校における健康診断や「新体力テスト・健康実態調査」を食育推進施策の基礎資料とするとともに、必要な情報を提供します。	食に関するアンケート調査 県政モニター380人 H26.11実施	各イベントでのアンケートを実施予定	県政モニターアンケート(4年に1回の実施、前回H22) 県民栄養調査(5年に1回の実施、前回H21) 新体力テスト、健康実態調査(毎年実施) 食育推進計画の重要な基礎資料となっている。	消費生活安全課 健康増進課 スポーツ健康課